

洋友会

発足 25 周年記念

ロゴマークからみた

# SANYO mini ヒストリー

## SANYO ロゴマークの変遷

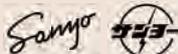
1947年(昭和22年)



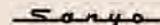
1949年(昭和24年)



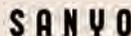
1953年(昭和28年)



1955年(昭和30年)



1956年(昭和31年)



1958年(昭和33年)



1961年(昭和36年)



1976年(昭和51年)



1986年(昭和61年)



創業者井植歳男は 出発に当たって 社名を三洋電機と名づけた  
将来 世界はひとつであると思う 努力し 社会に貢献したものは  
日本だけでなく 世界から迎えられるようになるであろう  
われわれは 世界を相手にして 仕事をしようと  
三洋とは 太平洋 大西洋 インド洋 この海につながる国々  
いわゆる全世界をあらわす

三洋電機洋友会

# 創業者のことは



創業者 井植歳男

まず相手の立場に立って  
考えよう

どんなときでも、相手の立場をまず考えよう。  
相手の便利、経済、楽しみ、よろこび、  
そして繁栄が第一だ。

それを自分の事業に結び付けてこそ、  
自分の幸福が得られるのだ。

自分の足跡を残す

与えられた仕事を、命じられたままに  
トレースするのではなく、

自分の持つ知識、能力、技術、アイデア、  
何かをプラスする。

すべて先人の歩んだ足跡よりも

大きなものを残す気概、それが大切だ。

# 「ナショナル」から「サンヨー」へ 発電ランプの昔ばなし

吉岡 雅行

この記事は、2009年7月発行の「洋友」No.80に吉岡さまから寄稿いただいたものを再録させていただきました。

昭和28年（1953年）1月5日。初荷の翌日、卒業式も、もちろん入社式も待たず、私は「実習」の名目で守口の本社に出社しました。連れていかれたのは、構内奥の倉庫で、先輩作業員に紹介され、扱う商品と工場の名前を覚えよ、ということでした。5〜6人いた現場のオジサンたちは親切な人ばかりで、年配の一人が「アンタら、すぐにペン持つてもらわなイカンのやから（つまり、事務職員だから）あんまり重いモン担がんでもエエで」といつてくれました。

しかし、現実には、「北条からトレーラーが着いたでエ」と大声で呼ばれると、小物の包装作業を中断して、荷下し場へ大急ぎで駆けつけることになりました。そして、トレーラートラックの長くて広い荷台から肩に担がせられたのは、発電ランプ10個入りの頑丈な木箱2つを鉄帯で抱き合わせた、けっこう重いものでした。

そこで初めてお目にかかった



の、木箱に印刷された「ナショナル発電ランプ」のロゴでいう質問には、皆さん同様、ご承知の通りの説明を受けたのです。

①昭和27年（1952年）7月号  
「サンヨーニュース」掲載  
当時の三洋電機は、資本金6千万円、ほどなく1億円に増資

社売上約23億円の内、48・2%。また、生産拠点の北条工場は、製造業の中でもいち早く「ベル

課」に正式に配属され、発電ランプとの本格的な「付き合」が始まりました。当時はプラスチックを発売して1年あまり、洗濯機は発売したばかりで、輪界事業の占める金額ウエイトは全社の半分近くはありました（28年下期・半年の全社売上約23億円の内、48・2%）。また、生産拠点の北条工場は、製造業の中でもいち早く「ベル

トコンベア方式」を採用し、業界でも注目されていた先進工場で、社内、社外からの見学者は、絶え間なく続いていました。

その日の見学会も、その後の有馬温泉でのパーティも無事に進行し、最後に会社側のお礼の挨拶のあと、とんだハプニングがおこりました。それは『中締めの方歳』の音頭とりに地域代表で登壇した年配の店主が、酔っていたからでしょうか、「ナショナル発電ランプ、バンザイ」、

に続けて、こともあろうに「松下電器、バンザイ!」と、やっってしまったのです。一瞬、大広間は静まり返り、そして、すぐ爆笑とヤジで騒然となりました。凍りついたまま立ち尽くしていたのは、大広間の末席にいた岩佐常務を始めとする社員たちの一画だけでした。

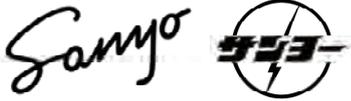
「発電ランプのブランドを、スムーズにサンヨーに変えてゆけ」と指示されたのが、私の輪界企画担当の初仕事でした。「スムーズ」とは、名前の売れた「ナショナル」ブランドから「サンヨー」に変えて、売れ行きに影響が出ないかが心配であり、自信をもって「大丈夫」とは誰もいえない状況でした。事実、当社に「ナショナルブランド」を譲ったご本家の松下さんさえ、「ハイパー発電ランプ」というブランドでは、苦戦しているという見られられました。

②昭和28年（1953年）8月  
「サンヨーサイクルニュース」掲載  
この後、当社はヒット商品が続き、さらに初登場の噴流式洗



# ロゴマークからみた SANYO mini ヒストリー

年代	出来事	社会の出来事
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  <div style="text-align: center;"> <p>1947年(昭和22年)～</p> </div> </div>		
<p>1947年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・井植歳男の個人経営で三洋電機製作所設立</li> <li>昭和22年2月1日、兵庫県加西市北條町にある古びた工場の正門に、新しい木製の看板が掲げられた。厳寒の候であったが、さんさんたる陽光の中に、墨の色も鮮やかな「三洋電機製作所北條工場」の文字がくっきりと浮かび上がった。</li> <li>戦後、松下電器産業株式会社の専務取締役を辞した三洋電機の創業者井植歳男は、このとき個人経営で自転車用発電ランプの製造に乗り出したのである。</li> <li>・発電ランプ1号機（47型） ナショナルの商標で発売</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・六三制発足</li> <li>・日本国憲法施行</li> <li>・電気パン焼き器流行</li> </ul>
<p>1948年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発電ランプの広告(当社初の新聞広告)大阪日日新聞に出稿</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ受信機の 配給制度廃止</li> </ul>
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  <div style="text-align: center;"> <p>1949年(昭和24年)～</p> </div> </div>		
<p>1949年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三洋初の輸出 貿易公団への発電ランプ5,000台納入をGHQから指令される</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1ドル360円の単一為替 レート設定</li> <li>・湯川秀樹氏、 ノーベル物理学賞受賞</li> </ul>
<p>1950年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三洋電機株式会社設立 昭和25年4月、発電ランプの事業いっさいを引き継いで、資本金2,000万円の三洋電機株式会社が設立された。(中略) 従業員約190名、売上は半期3億円程度の規模であった。 本社は守口市梅町14番地(現保健センター所在地)におかれた。</li> <li>・三洋電機製作所が、旧松下飛行機(株)から住道工場を買収してラジオ部品の生産開始。また、旧松下金属(株)から瀬田工場を買収して乾電池用ランプケースの生産開始。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・千円札発行</li> <li>・NHK技研、テレビ実験局 開設</li> <li>・朝鮮戦争勃発</li> </ul>
<p>1951年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・守口市京阪本通2-18の現在地に本社新社屋（東館2階建）完成</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ユネスコ、日本・西独の 加入を承認</li> <li>・民間ラジオ放送開始</li> <li>・民間航空再開</li> </ul>
<p>1952年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業界初、プラスチックラジオ1号機（SS-52型）発売</li> </ul> <p>昭和25年からスピーカーやコイルを手がけていたが、ラジオの量産をやろうという事になった。(中略) キャビネットは新しい素材で量産のきくものを捜し、プラスチックはどうかということになり、積水化学の奈良工場に相談、研究に着手した。(関係者談)</p> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プラスチックラジオの大型模型宣伝車登場</li> </ul> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対日講和条約および 日米安全保障条約発効</li> <li>・国連総会、日本加盟を 採択</li> <li>・白黒テレビ放送標準方式 決定</li> <li>・NHKラジオ登録台数 1,000万台突破</li> </ul>

年代	出来事	社会の出来事
 <p style="text-align: center;">1953年(昭和28年)～</p>		
<p>1953年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国内初の噴流式洗濯機1号機 (SW-53)発売のちに評論家大宅壮一氏、この年を「電化元年」と命名</li> <li>洗濯機発売の直前、昭和28年6月、女優木暮実千代さんとのモデル契約が結ばれた。 “サンヨー夫人”木暮実千代さんの登場が、噴流式洗濯機の出現とともに、家庭電機メーカーとしての当社のイメージづくりに大きな役割を果たしたことは、よく知られている。</li> <li>テレビ1号機 (17C-231型)発売</li> </ul>   	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝鮮戦争休戦協定調印</li> <li>NHK(東京)、日本テレビ テレビ本放送開始</li> <li>赤電話(公衆電話) お目見え</li> </ul>
<p>1954年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>大阪、東京の各証券取引所に上場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>NHK(大阪、名古屋) テレビ本放送開始</li> <li>米 NBC・CBSが カラーテレビ放送開始</li> </ul>
 <p style="text-align: center;">1955年(昭和30年)～</p>		
<p>1955年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋、京都、福岡、広島各証券取引所に上場</li> <li>日本テレビから初のテレビ提供番組「サンヨー夫人電化メモ」放映</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>テレビの月賦販売登場</li> <li>NHKテレビ登録台数 10万台突破</li> </ul>
 <p style="text-align: center;">1956年(昭和31年)～</p>		
<p>1956年</p> <p>1957年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>トランジスタラジオ1号機 (6C-1型)生産開始</li> <li>東京八重洲口に当社初のネオン塔完成</li> <li>日本初の扇面上下スライド式扇風機(EF-122型) 発売 日本の扇風機は、元来畳の上に置いて使用するものと考えられていたためか上背が低い。しかし実際の使用時にわざわざ台を置いて使う場合が多く、不安定である。 扇面を上下に動かせるようにしたら、台もいらず洋間でも床面に置いて使用できる。(中略) 当社が発売を始めたとき、その「扇面上下スライド式扇風機」に対して、驚嘆の声が上がった。</li> <li>淀川工場で冷蔵庫(SR-350型)の生産開始</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本初の南極観測船「宗谷」出発</li> <li>日本、国連総会に加盟</li> <li>ソ連、世界初の人工衛星スプートニク1号 打上げ成功</li> <li>5千円札、百円硬貨発行</li> <li>なべ底景気</li> <li>三種の神器(テレビ、洗濯機、電気冷蔵庫)</li> </ul>

年代	出来事	社会の出来事
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  <div style="text-align: center;"> <p>1958年(昭和33年)～</p> </div> </div>		
<p>1958年</p> <p>1959年</p> <p>1960年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半導体研究所が半導体工場となり、トランジスタの量産開始</li> <li>・ウインド型エアコン、電気火鉢の生産開始</li> <li>・掃除機 (SC-100型)、ステレオ1号機 (STG-100型)発売</li> </ul> <p style="margin-top: 20px;">この頃、家庭電機業界にとって注目すべき現象は、日立、東芝など重電メーカーの家電部門への進出である。すでに当社は松下電器とならんで総合家庭電機メーカーとしての基盤を確立しつつあったが、ユーザー・販売店・代理店の要請に応えるためにも商品分野のいっそうの拡大が必要であった。またこの時期は、まさに日本のエレクトロニクスの黎明期で、民生用機器の新商品が続々と登場した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンヨーテレビ劇場「私は貝になりたい」が文部大臣賞受賞</li> <li>・東京タワーにショールーム開設 (S50年撤去)</li> </ul> <p>1959年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンヨースーパーストア制度発足</li> <li>・東京三洋電機株式会社(群馬県邑楽郡大泉町坂田)設立 「岩戸景気」を背景に、急速に拡大する電気製品の需要に対応するため、関東初の生産拠点として設立した。 旧中島飛行機の跡地で、工場規模は100万平方メートル余。地元の要請もあり、別会社とした。</li> <li>・サンヨーテレビ劇場「いろはにほへと」で2年連続、文部大臣賞受賞</li> </ul> <p>1960年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社は「世界に誇りうる精度の高い仕事」制定</li> <li>・業界初の二槽式脱水乾燥洗濯機 (SW-400型)発売</li> <li>・カラーテレビ1号機 (21-CT5型)発売</li> <li>・貿易部を発展的に解消、三洋電機貿易(株)設立</li> <li>・業界初の10分の1馬力2極密閉型コンプレッサー開発</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center; margin-top: 10px;">   </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・NHKテレビ登録台数100万台突破</li> <li>・1万円札発行</li> <li>・東京タワー営業開始</li> </ul> <p>1959年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・NHKテレビ登録台数200万台突破</li> <li>・皇太子殿下・正田美智子さまご成婚</li> <li>・下期から岩戸景気にはいる</li> </ul> <p>1960年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新安保条約批准交換、発効</li> <li>・カラーテレビ本放送開始</li> <li>・各社カラーテレビ受像機販売開始</li> </ul>
<div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;">  <div style="text-align: center;"> <p>1961年(昭和36年)～</p> </div> </div>		
<p>1961年</p> <p>1963年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新商標 <b>SANYO</b> 制定</li> <li>・業界初のスプリット型エアコン (SAP-200E型)生産開始</li> </ul> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin-top: 10px;">   </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初の海外製造合弁会社 三洋電機&lt;香港&gt;有限公司設立</li> <li>・ニッケルカドミウム蓄電池(カドニカ電池)、太陽電池、ELランプ、サーモジェネレーターの開発に成功</li> <li>・当社初の総額20億円の社債発行</li> </ul> <p>1963年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・白黒テレビワイド19 (19-w1型)発売、大型化に先鞭</li> <li>・扇風機用ダイナミットワイドモーター(非対称誘導電動機、S43年レッドモーターと改称)開発</li> <li>・業界初の充電式カドニカラジオ (8S-P25型)発売</li> </ul> <div style="text-align: right; margin-top: 10px;">  </div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソ連、世界最初の人間衛星船ポストーク1号打上げ成功</li> </ul> <p>1963年</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・通信衛星による日米間テレビ中継成功</li> <li>・ケネディ米大統領、ダラスで暗殺される</li> </ul>

年代	出来事	社会の出来事
1964年	<ul style="list-style-type: none"> <li>充電式カドニカカミソリ (SV-40型) 発売</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>東海道新幹線営業開始</li> <li>第18回オリンピック東京大会開催</li> </ul>
1965年	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界初、カラーテレビ (16-CT50型) で1インチ1万円代実現</li> <li>充電式カドニカライト (NL-421型) 発売</li> <li>アートドア冷蔵庫 (SR-150AD型) 発売</li> <li>和風ネーミングの先駆けとなった「テレビジョン日本」 (19-K1型) 発売</li> </ul>   	<ul style="list-style-type: none"> <li>名神高速道路全線開通</li> <li>朝永振一郎氏、ノーベル物理学賞受賞</li> </ul>
1966年	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥取三洋電機 (株) 設立</li> <li>モジュラータイプのステレオOTTO (DC-434型) 発売</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>総人口1億人突破</li> <li>3C(カラーテレビ、クーラー、カー) 時代へ</li> <li>ヨーロッパ共同体 (EC) 発足 (1967年)</li> </ul>
1968年	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界初、カセット集塵方式掃除機「太郎」 (SC-3000型) 発売</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>小笠原諸島日本に復帰</li> <li>川端康成氏、ノーベル文学賞受賞</li> </ul>
1969年	<ul style="list-style-type: none"> <li>井植歳男会長逝去 遺志により、寄贈の10億円の基金で財団法人井植記念会発足</li> <li>SBC(サンヨー薔薇チェーン) 制度発足</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>米アポロ11号月面着陸 月面に人類の第1歩</li> <li>好景気戦後最長記録 (いざなぎ景気)</li> <li>東名高速道路開通</li> </ul>
1970年	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本万国博覧会にサンヨー館出展 当時、一般には「万国博はお祭りだ」という見方が強かったが、当社は「万国博も一つの社会事業であり企業の社会的責任である」という立場で取り組んだ。(中略) サンヨー館は「日本のこころ」をテーマに、(中略) ヤングプラザ、音と光で日本の四季を表現するサンブラザ、そしてウルトラソニックバスと称する人間洗濯機、完全浄化空調ベッドの健康カプセル (中略) などを配して、未来の家庭生活を演出した展示場になっていた。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本万国博覧会開幕 (77カ国参加)</li> <li>赤軍派による日航機よど号乗っ取り事件</li> <li>三島由紀夫ら割腹自殺</li> </ul>
1971年	<ul style="list-style-type: none"> <li>リモコン式カラーテレビズバコン1号機 (20-CTR910R型) 発売</li> <li>吸収冷凍機1号機出荷</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>通産省、カラーテレビ二重価格は正、現金正価撤廃</li> <li>ニクソン米大統領、金・ドル交換一時停止 (ニクソンショック)</li> </ul>
1972年	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本初のレセプトコンピューター「メディコム」1号機を開発・納入</li> <li>当社ビデオテープレコーダー、札幌オリンピックで公式判定用として活躍</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>冬季オリンピック開催 (札幌)</li> <li>山陽新幹線、新大阪-岡山開通</li> <li>沖縄の施政権返還</li> </ul>
1973年	<ul style="list-style-type: none"> <li>業界初のポータブルカセット2分の1インチ型ビデオ (VTC-7100SL型) 発売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>OPEC石油戦略発動 (オイルショック)</li> <li>江崎玲於奈氏、ノーベル物理学賞受賞</li> </ul>
1975年	<ul style="list-style-type: none"> <li>世界初、二酸化マンガンリチウム一次電池を開発 (量産開始は1978年)</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>佐藤前首相、ノーベル平和賞受賞 (1974年)</li> </ul>

年代	出来事	社会の出来事
 <p style="text-align: center;">1976年(昭和51年)～</p>		
<p>1976年</p> <p>1979年</p> <p>1981年</p> <p>1983年</p> <p>1984年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界のサンヨーをめざす新トレードマーク決定</li> <li>・リチウム電池応用1号商品、薄型電卓（CX-8176L型）発売</li> <li>・世界初、アモルファスシリコン太陽電池「アモルトン」の量産化</li> <li>・ステレオラジカセ「おしゃれなテレコU4」発売（MR-U4型）</li> <li>・天皇陛下（昭和天皇）が滋賀製造事業部をご視察</li> <li>・業界初、氷温技術採用の氷温貯蔵室「おさしみルーム」付き冷蔵庫（SR-430VH型）発売</li> <li>・シングルライフ商品「it's」シリーズ発売 「it's」シリーズは、若者のライフスタイルに合った商品をグループとして提案。 it'sは「僕たちが欲しかったものはそれだ」を象徴している。</li> </ul>   	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カラーテレビの対米輸出自主規制実施（1977年）</li> <li>・円急騰、1ドル253円（1977年10月）</li> <li>・円急騰、1ドル175.5円（1978年10月）</li> <li>・東北、上越新幹線開通（1982年）</li> <li>・NHK衛星テレビ放送開始</li> <li>・日航ジャンボ機御巣鷹山に墜落（1985年）</li> </ul>
 <p style="text-align: center;">1986年(昭和61年)～</p>		
<p>1986年</p> <p>1988年</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三洋電機と東京三洋電機が合併、「新生三洋電機」が発足</li> <li>・新ワードマーク採用 12月1日、三洋電機と東京三洋電機が正式に合併した。「ニュー・サンヨー社員大会」と名づけた記念行事は、東京三洋電機と大阪・守口の会場を通信衛星で結んで行われた。そこでの決意表明は「1986年12月1日、9時。きょう新しい三洋電機が誕生しました。たがいに良い競争相手としてしのぎを削ってきた三洋電機と東京三洋電機が、がっぷりひとつになって、新しい時代を開きます。 ニュー・サンヨーのスタートです。きょうを期して、トレードマークを斬新なワードマークとしました。 (中略)ワードマークの赤い色は、日々新しい命を生み、はぐくむ太陽の色です。『私たちは世界のひとびとになくってはならない存在でありたい』という経営理念の象徴です。(中略)エパー・ニュー・サンヨーに ナウ・レッツ・ピギン」</li> <li>・東京ドームに吸収冷温水機を納入</li> <li>・国産初の人工衛星用ニカド電池、宇宙開発事業団に納入</li> <li>・プロ野球初の冠大会、サンヨーオールスターゲームを開催</li> <li>・ボストン大学経営大学院と提携し、国際ビジネスマン養成コース開講</li> <li>・「ROBO」シリーズ発売</li> </ul>  	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利根川 進氏、ノーベル医学生理学受賞賞（1987年）</li> <li>・1ドル120.45円</li> <li>・世界最長の青函トンネル開通</li> <li>・瀬戸大橋開通</li> </ul>

年代	出来事	社会の出来事
1989年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーポレートスローガン「人と・地球が大好きです」を制定</li> <li>◆定年退職者の会〔洋友会〕発足 洋友会会員数 345人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和天皇崩御、皇太子明仁親王が即位</li> <li>・元号を平成と制定</li> </ul>
1990年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・超軽量フレキシブルアモルファス太陽電池「アモルトンフィルム」を開発。同フィルムを翼に貼ったソーラープレーン、史上初の北米大陸横断に成功</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各社、ファジィ理論応用の家電製品発売</li> <li>・東西ドイツ統一</li> </ul>
1991年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大阪シンフォニカーの活動支援を決定</li> <li>・ハイビジョン放送対応カラーテレビ「帝王」(HVC-33TO型)発売 「帝王」がヒットした秘密は、開発と生産・マーケティングを同時に進行させる製販一体のマーケットイン体制で商品化したところにある。また「帝王」のネーミングにふさわしいコマーシャル・キャラクターとして、プロゴルフ界の帝王、ジャック・ニコラスを起用してのキャンペーンを展開したことが功を奏した。</li> <li>・世界初、HIT構造太陽電池を開発</li> <li>・業界初、ハンズフリー・コードレス留守番電話機「テ・ブ・ラコードるす」発売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソビエト連邦崩壊</li> </ul>
1992年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界初、リン酸形ポータブル燃料電池を開発</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・皇太子殿下、小和田雅子さまと結婚の儀</li> </ul>
1994年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HIT太陽電池が世界最高の変換効率20.0%を達成</li> <li>・住宅用太陽光発電システム販売開始</li> <li>・リチウムイオン電池量産開始</li> <li>◆洋友会会員数 937人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関西国際空港開港</li> <li>・大江健三郎氏、ノーベル文学賞受賞</li> </ul>
1995年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家電メーカー初、輸入住宅事業に参入</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神・淡路大震災発生</li> <li>・地下鉄サリン事件発生</li> </ul>
1996年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三洋電機クレジット株式会社が大阪証券取引所第二部に上場</li> </ul>	
1997年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SANYOブランドのデジタルカメラ1号機（DSC-V1型）発売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費税5%実施</li> <li>・地球温暖化防止京都会議（COP3）開催</li> </ul>
1999年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本社第一ビルが完成</li> <li>・三洋電機クレジット（株）、東京証券取引所、大阪証券取引所第一部に上場</li> <li>・ハイブリッド車用ニッケル水素電池を開発</li> <li>◆洋友会会員数 2,402人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・欧州に単一通貨「ユーロ」誕生</li> </ul>
2000年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会社設立50周年</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・介護保険制度発足</li> </ul>
2001年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界初、洗剤ゼロコース搭載洗濯機（ASW-ZR800型）発売</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野依良治氏、ノーベル化学賞受賞</li> </ul>
2002年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大規模太陽光発電施設「ソーラーアーク」と太陽電池科学館「ソーラーラボ」オープン</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9.11米国同時多発テロ</li> <li>・拉致被害者5人帰国</li> <li>・小柴昌俊氏、ノーベル物理学賞受賞</li> </ul>
2004年	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆洋友会会員数 4,167人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・田中耕一氏、ノーベル化学賞受賞</li> </ul>



年代	出来事	社会の出来事
2005年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第三の創業」と位置づけ、ビジョン「Think GAIA」を策定  </li> <li>・次世代ニッケル水素電池「エネループ」発売  </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報保護法全面施行</li> <li>・JR福知山線で脱線事故 死者107人</li> </ul>
2006年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空気で洗うエアウォッシュ機能搭載ドラム式洗濯乾燥機「AQUA」(アクア)(AWD-AQ1型)を発売  </li> </ul>	
2007年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部屋の空気を清浄する機能搭載家庭用サイクロン式クリーナー「エアシス」(SC-XD1型)発売  </li> <li>・「エネループ・ユニバース・プロダクツ」が2007年度グッドデザイン大賞を受賞  </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人の皮膚から万能細胞を作ることに成功 京都大学山中教授ら</li> </ul>
2008年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・三洋電機ラグビーチーム「ワイルドナイツ」日本選手権で初優勝  </li> <li>・天皇皇后両陛下が東京製作所に行幸啓</li> <li>・北京オリンピックに三洋電機バドミントンチームの小椋、潮田、広瀬選手が出場  </li> <li>・パナソニック株式会社と資本・業務提携契約を締結</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小林 誠氏、益川敏英氏、南部陽一郎氏、ノーベル物理学賞受賞</li> <li>・下村 修氏、ノーベル化学賞受賞</li> <li>・リーマンショック勃発</li> </ul>
2009年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HIT太陽電池セルで世界最高の変換効率23.0%を達成</li> <li>◆洋友会会員数 4862人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・裁判員制度スタート</li> <li>・衆院選で民主党勝利、政権交代へ</li> </ul>
2010年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・次世代の環境配慮型工場「加西グリーンエナジーパーク」が完成</li> <li>・お米から「パン」が作れる 世界初！            ライスプレッドクッカー「GOPAN (ゴパン)」(SPM-RB1000型) 発売  </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・根岸英一氏、鈴木章氏、ノーベル化学賞受賞</li> <li>・東北新幹線全線開通</li> </ul>
2011年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パナソニック株式会社の完全子会社となる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・九州新幹線全線開通</li> </ul>
2013年	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆洋友会会員数 4653人(10月現在)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)</li> <li>・山中伸弥氏、ノーベル医学・生理学賞受賞(2012年)</li> </ul>

# 三洋電機標章の変遷

電気技術史第 44号 2007年 9月より転載

三洋電機は、1947年(昭和22)年「三洋電機製作所」を創立。創業時から3つの海(太平洋、大西洋、インド洋)を渡って雄飛し、世界の人々にも愛されることを目指し、1950年(昭和25年)社名を「三洋電機株式会社」としてスタートした。創業から、現在にいたるまでの標章の変遷について紹介したい。

## ■ 1947(昭和22)年

創業者井植歳男は、終戦まで経営部をつとめた松下電器を退社。ナショナルマークの使用権を譲り受け、自転車用発電ランプを最初の製品として製造した。この発電ランプの成功により、1950年、三洋電機株式会社を設立。



## ■ 1949(昭和24)年

日本初のプラスチックキャビネットを採用した高性能ラジオで家電業界に参入。価格を1万円以下に抑えた画期的な製品に対し、「無線」の技術を強くアピールするとともに、生き生き躍動する意欲を現わすマークとして制定した。



## ■ 1953(昭和28)年

日本の家庭電化ブームを作り出した噴流式電気洗濯機に採用したマーク。布地が痛みにくい噴流式を採用し、価格を従来の攪拌式洗濯機の約半分に抑えた画期的な製品であった。他に白黒テレビ1号機(17-C231型)、木製キャビネットラジオ1号機(SS-48型)など、高級感ある製品にも使用した。



## ■ 1953(昭和28)年

家電メーカーとしての存在を確立し、国内市場に強く対応する会社になったのに呼応して、近代性、発展性、スピード感といった要素が求められ、日本語による本格的マークとして制作。商標として制定した。



## ■ 1955(昭和30)年

生活様式が欧米スタイルに変わり、家電三種の神器は日本人にとって憧れの生活を実現する不可欠な小道具になってきた。当時はテレビ、洗濯機、トースター等の主力製品に使われていたが、翌年、社内が待ち望んでいた電気冷蔵庫、当社1号機にも採用された。



## ■ 1956(昭和31)年

高度経済成長への助走が始まり、先進技術を強くアピールするため作られたマーク。トランジスタラジオ1号機(当社)、ホームラジオ(トランジスター採用)、業界初のジェット水流洗濯機等の製品に使用した。



## ■ 1958(昭和33)年

家電製品は「必需品」から「生活を楽しむツール」へと発展する中、その代表的商品として主にジュースに採用した。マークデザインの洒落た感覚が海外で高く評価され、三洋電機貿易株式会社は海外向けにつくる宣伝広告媒体物にも多用した。



## ■ 1961(昭和36)年

重電メーカーが家電分野に参入するなど、競争が激化する中、三洋電機の企業イメージを確立するため、マークが極めて大きい役割を持つという考えから、創業以来の目標であった「世界のサンヨー」を表すコーポレートロゴマークを策定し、企業としてのイメージ統一を図る必要があった。マークに使用したブルーは、三洋(太平洋、大西洋、インド洋)の名にちなんだ世界を結ぶ海を表している。



## ■ 1976(昭和51)年

世界の人々の商品に対する好みも多様化。国際レベルを抜く技術とサービスと信用を表現する誇らしいシンボルマークとして作られた。SANYOの前のついている円は、1963(昭和38)年、トランジスタラジオが4年連続輸出No.1になったことを期に、世界のサンヨーとして考えられたシンボルマークである。



## ■ 1986(昭和61)年

創業以来、たがいによきライバルとして競争してきた三洋電機と東京三洋電機が合併。長期ビジョンに基づき、時代の変化と多様化するニーズに即応できる力の融合を意図するとともに、これを新生三洋電機のスタート「第二の創業」と認識し、マークも一新した。ワードマークは「私たちは世界の人々になくてはならない存在でありたい」との経営理念を基調色(サンヨーレッド)に、また先端技術への意欲的な取り組みと新しい文化を創造してゆく姿勢を書体に表現した。



- ・コーポレートカラーのサンヨーレッドは、太陽のような活力に満ち溢れた三洋電機株式会社および三洋電機グループを象徴するもの。
- ・ワードマークの中心Nの左右5本線はそれぞれ5つの行動基準と長期ビジョンを表している。

この冊子は、三洋電機発行の30年史等の刊行物及びホームページに掲載されたものをベースに編集。併せ、(一社)電気学会のご協力による。

発行 2014年1月 三洋電機洋友会